

クリスマスコンサートを開きました 雪の聖母聖堂で♪パイプオルガンとソプラノ独唱

聖マリア病院にある「雪の聖母聖堂」で12月12日、一足早いクリスマスコンサートが開かれました。久留米市の文化財にも指定されている同聖堂は、日ごろから患者さんやご家族などの祈りの場、安らぎの場として役立てられています。このたび、「地域の皆さんにも広く開放し親しんでいただければ」と、病院チャプレン室でコンサートを企画しました。当日は、筑後地区をはじめ各地から来場者がお見えになり、パイプオルガンの演奏とソプラノ独唱を鑑賞していただきました。



会場の「雪の聖母聖堂」は、もともと福岡市的大名町カトリック教会の聖堂として1896年（明治29年）に建てられたものです。当時としては数少ないレンガ造りの天主堂として注目され、建築史上でも貴重な文化遺産です。新聖堂建設のため、1986年（昭和61年）に、赤レンガを一個一個ていねいに解体し聖マリア病院の敷地内に移築保存されました。演奏に使われたパイプオルガンも、移築に合わせて新しく設置されました。以来、ミサを行うなど、病院を訪れる患者さんやご家族、病院職員の「心の家」としての役割を担っています。



パイプオルガンを演奏する平田 孝子さん



ソプラノ独唱の岡本 峰世さん

コンサートでは、パイプオルガン演奏を大名町カトリック教会オルガニストの平田孝子さん、またソプラノ独唱を岡本峰世さんに務めていただきました。会場は車椅子の患者さんやご家族などでいっぱいになりました。バッハをはじめ平田さんが奏でる荘厳なバロック音楽やクリスマス曲、そして岡本さんの情感豊かなソプラノ独唱が、来場者を魅了しました。約1時間のコンサートが終わると、大きな拍手がわき起こりました。アンコールにも応えていただき、感動の輪が一層広がっていき

ました。
一般の方々もたくさん来場されており、柳川市から家族で訪れたという女性は「きれいな音楽と歌声に癒されました」と感想を述べておられました。



花束を贈られる平田さん(左)、岡本さん(右)